学生ボランティアについて

防災情報研究センター
片岡由香

2018年11月12日

はじめに

愛媛大学の学生の被災状況

被災地出身者

2,999名

※全在籍学生の約3割

被災者数

88名

※10月23日時点（最終版）
※学生からの申出者数

災害直後からの動き

学生個人、各学部・学科などで個別に被災地へ

↓

大学内に、学生ボランティアの支援組織を設置

学生ボランティア・サポートセンターの開設

日付	事項
7月９日	危機対策本部設置
7月11日	大洲市から学生ボランティア派遣要請
7月13日	大洲市への災害ボランティアに対する支援を開始 （バス借上料，消耗品費用（軍手・マスク・飲料）を援助）
7月18日	支援対象を愛媛県内の被災地へ拡充 （バス借上料を援助，軍手・ゴム手袋・マスク・飲料を現物支給）
7月23日 ～8月3日	平日に毎日職員６名程度を大洲市へ 継続的にボランティア活動を実施
7月25日	愛媛大学学生ボランティア・サポートセンター開設
8月7日～	ボランティアバス（教職員・学生混成チーム）の運行を開始 ＜平日限定，西予市，宇和島市，大洲市をローテーション＞
9月10日～	ボランティアバスを土曜日限定の運行へ変更
10月以降	ボランティアバスを現地ニーズと参加者がマッチした土曜日の運行へ変更

作成：　学生支援センター　阿部光伸

学生ボランティア・サポートセンター

【代表】河相翔太（法3・SCV）
【副代表】矢谷竜範（工4・SCV），篠永信一朗（工3・ELS）

今回の豪雨被害に対して，大学公認ボランティア団体SCVを中心にして，7月25日「学生ボランティア・サポートセンター」が設置されました。

作成：　学生支援センター　阿部光伸

その後

大学発「ボランティアバス」の運行

ボランティアバス運行までの流れ

日付	事項
7月９日	危機対策本部設置
7月11日	大洲市から学生ボランティア派遣要請
7月13日	大洲市への災害ボランティアに対する支援を開始 （バス借上料，消耗品費用（軍手・マスク・飲料）を援助）
7月18日	支援対象を愛媛県内の被災地へ拡充 （バス借上料を援助，軍手・ゴム手袋・マスク・飲料を現物支給）
7月23日 ～8月3日	平日に毎日職員６名程度を大洲市へ 継続的にボランティア活動を実施
7月25日	愛媛大学学生ボランティア・サポートセンター開設
8月7日～	ボランティアバス（教職員・学生混成チーム）の運行を開始 ＜平日限定，西予市，宇和島市，大洲市をローテーション＞
9月10日～	ボランティアバスを土曜日限定の運行へ変更
10月以降	ボランティアバスを現地ニーズと参加者がマッチした土曜日の運行へ変更

作成：　学生支援センター　阿部光伸

ボランティアバス実施概要

1. 期　間　　8月7日(火)から10月20日(土)【15回】
   - 8/7～9/7　：平日のみの運行（9/10以降は土曜日に限定）
2. 場　所　　西予市，宇和島市，大洲市
3. 参加者（延べ人数）

学生	教職員	附属高校生	合計
111 (236)	100 (214)	19 (19)	**230 (469)**

注）カッコ内の数値は「申込者数」

注）減少の理由：台風，ボランティアセンターの開所状況等による活動中止のため

作成：　学生支援センター　阿部光伸

ボランティアセンターとしての今後の活動

◆ 今回の災害を教訓に

⇒ **『災害ボランティア活動ハンドブック』** の発行

◆ 今後起こりうる**「南海トラフ地震」**への準備も見据えて，
多様な観点から常置に向けた検討も行う

作成： 学生支援センター　阿部光伸

〈参考〉

『災害ボランティア活動ハンドブック』

編集の進め方　（愛媛大学学生ボランティア・サポートセンター・スタッフ他で作案）

冊子名称(案)

『愛大生のための「災害ボランティア活動」ハンドブック』（案）

編集／発行

愛媛大学学生ボランティア・サポートセンター／学生支援センター

〈協力〉愛媛大学防災リーダークラブ，愛媛県社会福祉協議会，他

冊子のイメージ

サイズ：A5 or B5　／　ページ数：24 or 32ページ程度

作成：　学生支援センター　阿部光伸

各学部での活動例

社会共創学部の
災害ボランティア活動支援について

社会共創学部　松村暢彦

代理報告：　片岡由香

2018年11月12日

学生災害ボランティア活動支援内容

- ボランティア活動の備品、装備の購入
  - 長ぐつ（いくつかのサイズ）、マスク（防塵用、通常用）、軍手、ゴム手袋（耐突刺性、耐油性があるのがよい）、ビニル袋（汚れた長くつ等を入れる）、飲料水・スポーツドリンク、ヘルメット、スコップ（角スコ、剣スコ／大、小）、手スコ、雑巾、塩飴、救急箱
- 水害ボランティア活動参加ガイダンス資料の作成と実施（渡邉准教授作成）
- ボランティア活動支援の実施要綱、手順フローの作成と見直し
- 教職員の同行

作成：　社会共創学部　松村暢彦

災害ボランティア活動実態

13日間実施

（ 7/14（土）～16（月）、7/18（水）～24（火）、7/28（土）、8/4（土）、8/5（日））

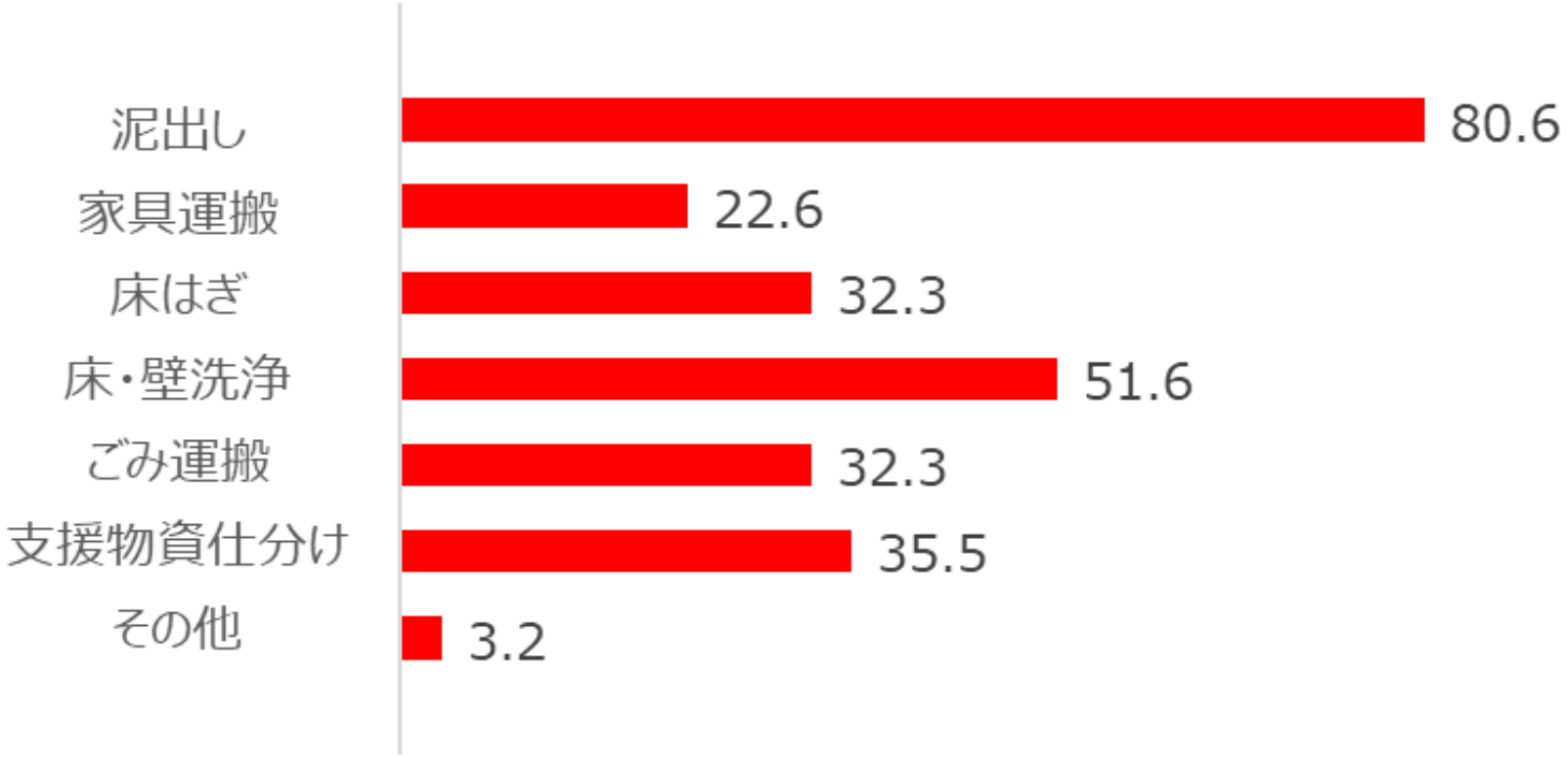
のべ313人の災害ボランティア活動

- 7/18～7/24の環境デザイン学科の専門講義を休講（後日補習を実施）

ボランティア参加者へのアンケート結果

（Webアンケート、無記名、30名）

Q　ボランティアではどのような内容の活動を行いましたか？（複数回答）

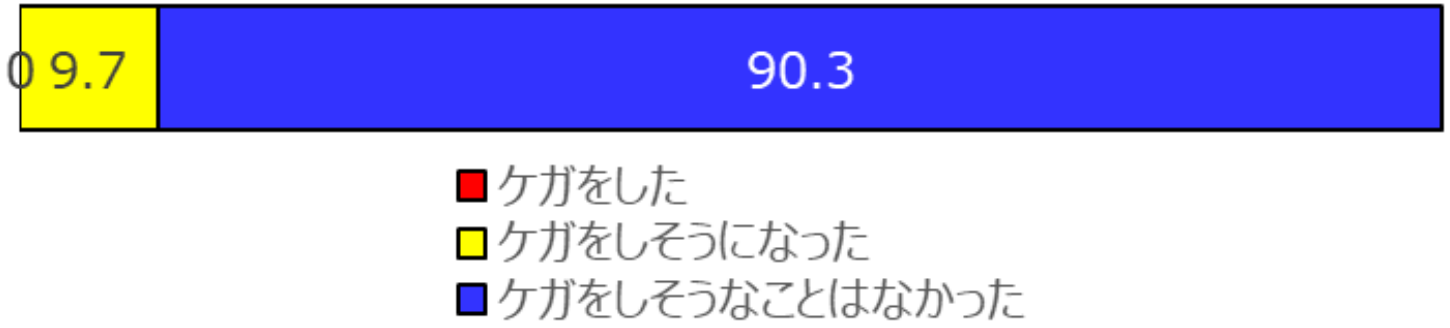


作成：　社会共創学部　松村暢彦

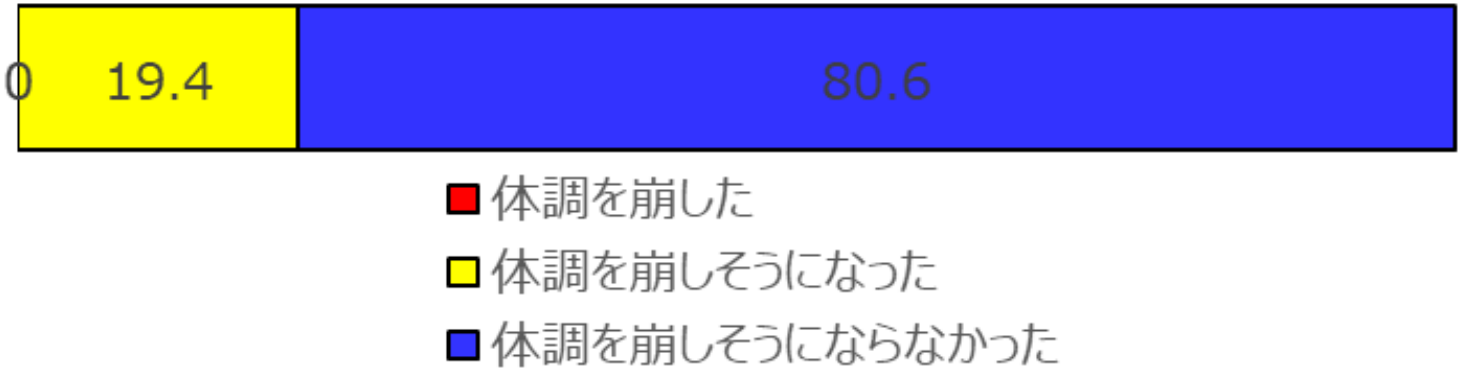
ボランティア参加者へのアンケート結果

（Webアンケート、無記名、30名）

Q　ボランティア活動中にケガをしましたか（ケガをしそうになりましたか）



Q　ボランティア活動中に体調を崩しましたか（崩しそうになりましたか）



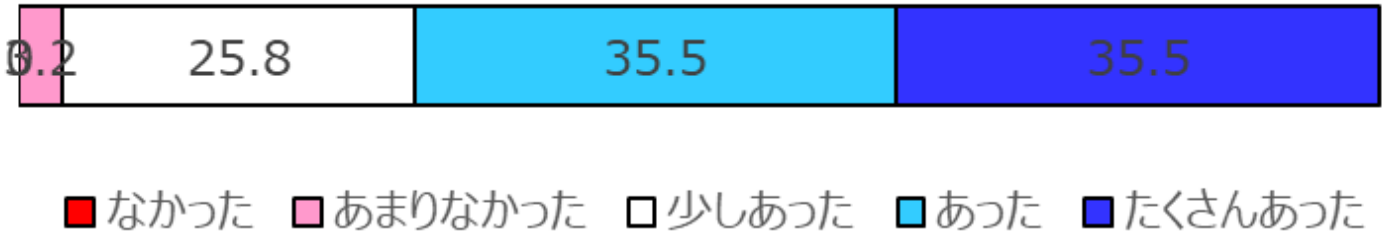
作成：　社会共創学部　松村暢彦

ボランティア参加者へのアンケート結果

（Webアンケート、無記名、30名）

Q　ボランティアに参加する前は、活動に不安を感じていましたか？

Q　ボランティア活動に参加して、普段接することが少ないいろいろな人と話す機会がありましたか？

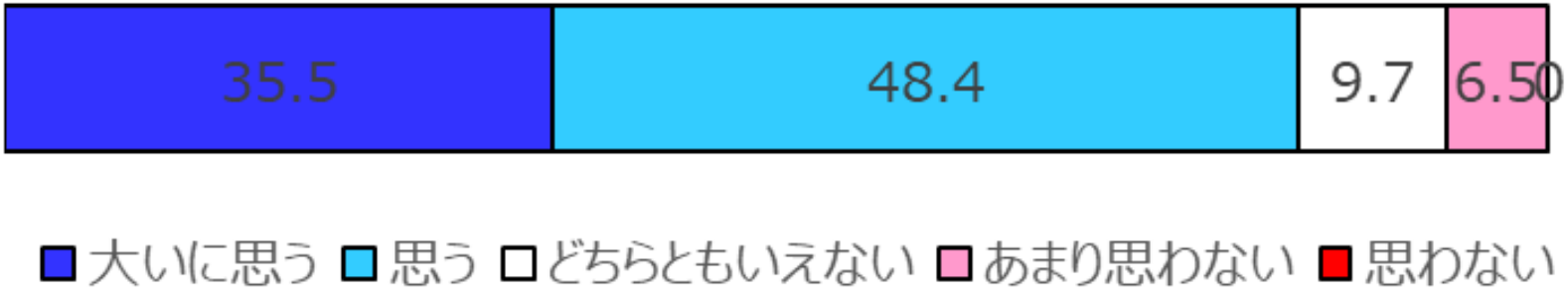


作成：　社会共創学部　松村暢彦

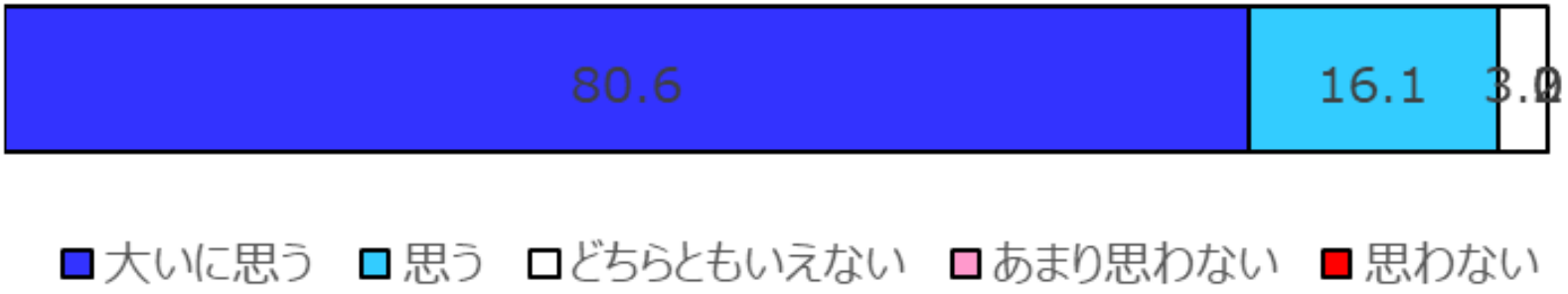
ボランティア参加者へのアンケート結果

（Webアンケート、無記名、30名）

Q　自分も被災地の力になることができると思いますか？



Q　ボランティア活動に参加してよかったと思いますか？

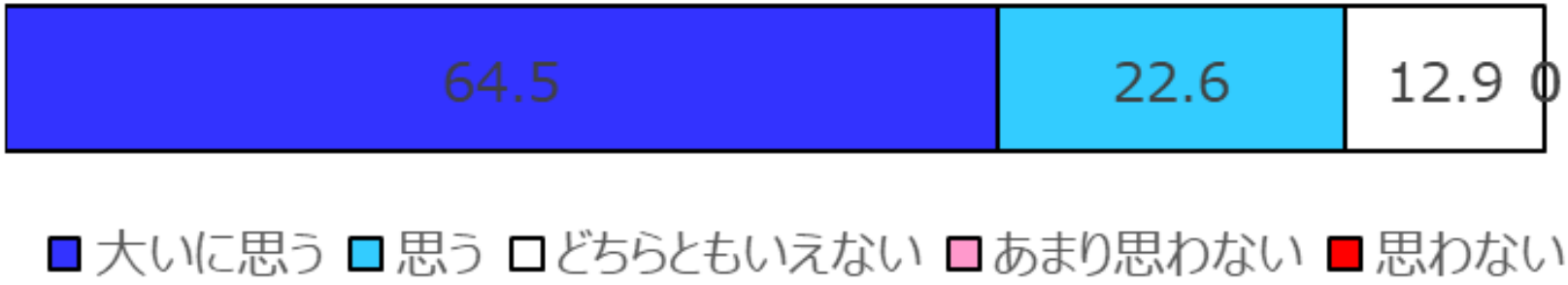


作成：　社会共創学部　松村暢彦

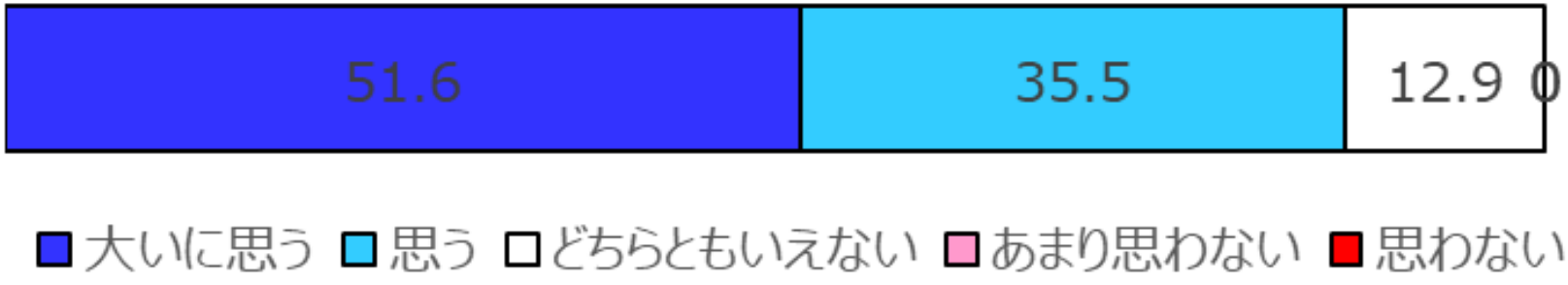
ボランティア参加者へのアンケート結果

（Webアンケート、無記名、30名）

Q　今後ボランティア活動に参加したいと思いますか？



Q　今後の大学の授業や演習、実習により一層、前向きに取り組もうと思いますか？



作成：　社会共創学部　松村暢彦

学生の自由記述から

市民性の向上

- あたたかさ、感謝
- 「実際に行ってみるとそこにはやはり人のあたたかさがあるということを改めて学びました」
- 共感
- 「自分の家も流されて、近くに住んでいた友達も･･･」と泣きながら仰られていて、すごく胸が痛くなりました。」
- 「実家も自営業であり、同じ状況になったときにどれ程のストレスがかかるのだろうかとも思った。」

自己効力感、自己肯定感

- 「感謝の気持ちや何か手伝えることはないかと行動しようとする気持ちがあれば、それは必ず相手に届く」
- 「今私たちは必要とされているのだと実感し、最後まで時間いっぱい活動をすることができました。」

作成： 社会共創学部　松村暢彦

学生の自由記述から

学習の動機付け

- 専門力の必要性
- 「前日まで普通に過ごしていた家が災害により壊され、当たり前の生活を失ってしまった状況を見て、災害の恐ろしさを知り、今後このような被害を低減させるためにどのような事ができるのかは考えていく必要があると思った。」
- 「その予想以上に対応して行かなければいけないと思った。」

学生の自由記述から

限界

- 「1日でできる活動の限界を感じた」
- 「長期的に、もしくは何度もボランティアに行くことが大切だと感じた。」

現場の多様性

- 「泥出しなど力を使う作業だけがボランティアだと思っていたが，被災された方と話してリラックスしてもらうこともボランティアのできることだと言うことが分かった」

前向きに生きていくこと

- 「人生において、今から直面するであろう困難や苦難に対して、引かない姿勢で臨んでも生きることはできるんだという事を学ぶことができて、積極的に生きていこうと思えた。」

作成： 社会共創学部　松村暢彦

今後のボランティア活動

西予市野村町での復興に向けた活動

復興ソングの制作

対象地：　西予市野村町

対象者：　小中高生を中心

日時　：　2018年11月18日（日）

10:00～16:00

会場　：　ゆめちゃんこ

講師　：　INSPi　杉田篤史

企画　：　杉田篤史、
TOKYO　L.O.C.A.L
羽鳥剛史・片岡由香
（社会共創学部）

みんなでつくろう！

のむらのうた

平成30年7月豪雨で被害に遭われた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。
この度、野村町の小中高生を中心に、豪雨災害からの復興ソングをつくる取り組みを企画いたしました。
ご関心のある生徒の皆さんにおかれましては、ぜひご参加ください。
杉田篤史（INSPi）・羽鳥剛史（愛媛大学）

11/18（日曜日）

10:00-16:00　※昼食を各自でご用意ください。
会場：「ゆめちゃんこ（野村地域教育複合施設）」2階

参加対象者
野村小学校、中学校、高校生の生徒の皆さん
※本企画に興味のある生徒さんは誰でも参加自由です。
楽曲作りの経験などは一切問いません。
みんなの心のふるさとになるような「野村のうた」を
一緒につくりましょう！

杉田篤史 プロフィール

アカペラグループ INSPi リーダー、
ハモニケーションワークショップ
hana-iaka 代表、
NPO 法人 TOKYO L.O.C.A.L 理事、

1997年大阪大学で INSPi 結成。2001年フジ系「ハモネプ」出演、メジャーデビュー。[illegible] BOOM 現象を中国語圧倒と評価される。2005年より日立 CM ソング「花の水 [illegible]」担当。2015年 NHK みんなのうた「ドレミはハーモニー」作詞。2017年コクヨテープのり「ドットライナー」テーマソングを作詞。2017年より全国幼稚園・保育園・学校向けアカペラハーモニーを用いたハモニケーションワークショップ hana-iaka をスタート。[illegible]・コクヨ・[illegible]大学・[illegible]などで開催。インドネシア、タイ、モンゴル、ウズベキスタン、カザフスタン、メキシコ、ブラジル、アメリカ、[illegible]・ミクロネシアなど海外公演と現地でのワークショップ実施。2018年より東京都江戸川区の地域活性化と全国の災害支援に取り組む NPO 法人 TOKYO L.O.C.A.L の理事に就任。